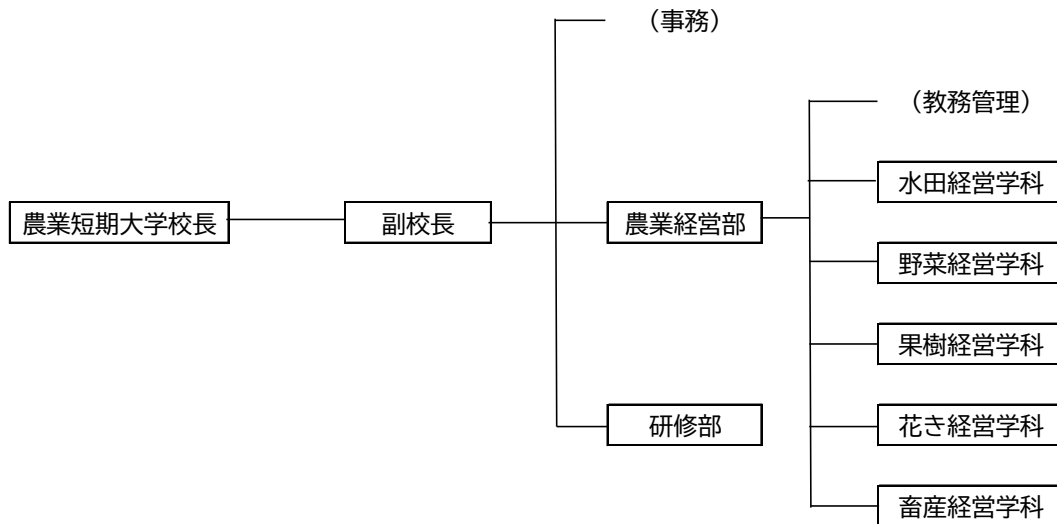


1 農業短期大学の業務実績

(1) 概要

ア 組織



イ 施設 区 分	主な施設内容
教育施設	本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室) 研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室) 多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール) 男子寮(けやき寮)、女子寮(せんだん寮)、食堂、体育館
実習教育施設	実習教育棟、作業棟、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、 乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所(アグリハウス万菜)
研修施設	研修棟、屋外トイレ 農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース 農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高湿加工室、粉体加工室)

(2) 農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア 学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60名)

(ア) 学生数は1学年 59名、2学年 45名、合計 104名(前年度 93名)であり、1学年はほぼ定員となった。しかしながら学生数、減少による高校改革、少子高齢化などにより定員確保は大きな課題である。

学科別では、水田経営学科 23名、野菜経営学科 31名、果樹経営学科 19名、花き経営学科 10名、畜産経営学科 21名の在籍数となっている。

出身高校別では農業課程が 60名、普通課程 30名、その他が 14名であり、農業高校出身の学生が 58%となっている。

農家・非農家別では専業農家 19名、兼業農家 18名、非農家 67名であり、非農家出身の学生がおよそ 6割を占めている。

出身地域別では県北が 25名、県中が 23名、県南 18名、会津 15名、南会津 2名、相双 7名、いわき 6名、県外 8名であり、各地域からの応募がある。

(イ) 令和 5年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、45名であった。

(ウ) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1学年 10名、2学年 5名であった。

(エ) 学生寮の令和 5年度の入寮は、2学年は男子 19名、女子 6名、1学年は男子 25名、女子 7名であった。

イ 専修教育の状況

(ア) 水田経営学科

1学年は、農場実習で水稻、麦類、大豆、イモ類などの食用作物の栽培や加工を体験し、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

2学年は、卒業論文における研究対象の作物を水稻または畑作物から選択し、研究で得られた成果を就農後に活用できる課題に取り組むとともに、作物の栽培や調査研究を通して、高度な技術と経営感覚を身につけた。

JGAP 及び FGAP については、「米（玄米）」、「そば」、「小麦（JGAP のみ）」で認証を取得しており、更新審査に当たって講義や実習で新たなリスクを評価するとともに、農場施設及び帳簿の点検作業を行い、学生が主体となって受審した。JGAP 指導員資格を学生 4 名が取得した。

また、近年の米価下落に鑑み、大玉村の『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として本県のオリジナル水稻品種「福、笑い」の栽培や、本宮市の酒造メーカー「大天狗酒造」と連携した県オリジナル酒造好適米「福乃香」の栽培、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島のうどんだばい」の直売実習等での販売に取り組んだ。

スマート農業については、福島大学食農学類の准教授 2 名によるスマート農業に関する講義を受講し、最新のスマート農業の動向について知識を深めた。併せて、スマート農業機械を操作する実践的な研修を受講した。

学生の進路については、2 学年 13 名のうち 7 名が卒業後に就農した（親元就農 2 名、法人就農 5 名）。

(イ) 野菜経営学科

1 学年は、県内で栽培が盛んなキュウリやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学ぶとともに、スマート農業、環境制御技術等の最新の農業技術などについても学習し、知識・栽培技術を高めた。また、県内先進農家において長期研修を行い優れた技術や経営について学んだ。

2 学年は、産地の課題解決や高収益生産などの卒業論文調査研究に取り組むとともに、6 回開催した直売実習などで消費者のニーズを捉えながら生産物を直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、農業に係る優良事例について学生自ら企画して現地で視察・調査を行い知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマト、キュウリにおいて、リスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が学生に定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査について学んだ。

学生の進路については、2 学年 15 名のうち 2 名が自家就農、8 名が法人就農した。

(ウ) 果樹経営学科

JGAP、FGAP の認証品目である「ぶどう」「かき」部門において、学生主体の実践活動が定着した。特に、経験の浅い 1 学年に対し、2 学年が分かりやすく指導、助言するなど、学生間での技術の伝承が進み、GAP に対する意識は大きく向上した

果樹の生育状況は、春先の気温が高く、開花時期が平年より 2 週間程度早まり生育初期の管理が慌ただしかったが、以後の適期管理により高品質果実の生産が実現でき、卒業論文調査研究も充実した取りまとめができた。

さらに、生産物すべての販売を学生が主体となって担うことにより、責任感を持ち、達成感を味わうことができた。また、いくつかの事業所を訪問しての販売活動を通して農業経営における顧客管理の重要性も体感することができた。

学生の進路については、2 学年 6 名で就農する者はいなかった。

(エ) 花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、猛暑による高温障害の影響で一部のキクやシクラメンに開花遅延が見られたものの、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に早朝からの収穫実習や校外の直接販売の実習など、学生自ら生産から販売まで実践し、技術力や販売力を養うことができた。

また、県内の先進農家や県外の生花店、花き関連展示会への視察研修を行うなど高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への理解を深めることができた。

GAP 取組の一環としては、令和 3 年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」について継続認定を受けるとともに、認証シールを作成し宿根カスミソウの販売時に添付するなど、学生は花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んだ。

学生の進路については、2 学年 2 名のうち 1 名が法人就農した。

(オ) 畜産経営学科

講義や実習を通して、乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。飼養管理面では、飼養衛生管理マニュアルに基づく実践により、衛生管理に対する理解を深めることができた。また、責任分担制の下、監視カメラによる分娩予定牛の観察や休日の飼養管理を実施させることにより責任感を持って管理するという意識醸成を図った。スマート農業に関しては、NOSAI 福島や畜産研究所の研究員を講師に迎え、超音波診断技術に関する研究会を開催し、技術習得を図った。

校外活動では、子牛セリ市場や各種研修会への参加、乳業工場や(国研)農研機構畜産研究部門等の視察研修を実施した。

学生の進路については、2 学年 9 名のうち 1 名が自家就農、2 名が法人就農した。

- (カ) その他特徴的な取組
- a 福島大学食農学類との連携の具現化(本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他)
- ・根本文宏特任研究員 校内プロジェクト発表会指導・講評 1、2 学年
 - ・講義(スマート農業実践) 窪田陽介准教授「スマート農業の概論」
渡邊芳倫准教授「スマート農業と環境保全型農業の取組」
- b GAP の取組
- (a) GAP 概論の開講
本校職員、環境保全農業課職員、GAP・IT サポート合同会社佐久間輝仁代表を講師として GAP 概論を実施した。講座では、GAP の基本理念や本県での取組状況の説明、グループワーク、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAP に関する理解を深めた。GAP 更新審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。学生は、更新審査にも立ち会い審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。
- (b) JGAP 認証品目
水田経営学科 米(玄米)、そば、小麦
野菜経営学科 トマト、きゅうり
果樹経営学科 ぶどう、かき *更新認証日：令和 5 年 12 月 4 日
- (c) FGAP 認証更新
令和 2 年度末に認証を取得したふくしま県 GAP(FGAP)の更新認証申請を行った(令和 5 年 11 月 2 日)。
- (d) JGAP 指導員資格取得 2 学年 9 名、1 学年 11 名
- (e) 三重県農業大学校との GAP 交流(令和 5 年 9 月 19 日～9 月 21 日)
代表学生 5 名、引率職員 2 名で、三重県農業大学校を訪問し交流会を実施した。交流会では、GAP の取組状況や学生自治会活動に関する情報・意見交換、両校の農産物を直売実習で販売する直売交流、施設見学等を行った。
- (f) 花き日持ち品質管理認証(令和 3 年 12 月 1 日取得)
認証シールを作成し、認証取得品目である宿根カスミソウの販売時に添付し、日持ち認証に対する意識の向上及び PR を図った。
- c スマート農業に係る人材育成(教職員の技術習得、研修講座開設)
- (a) スマート農業実践の開講
本校職員、福島大学食農学類准教授 2 名によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー((株)南東北クボタ)と連携し、スマート農業機械(4 機種)を操作演習する研修を実施した。
- d 地域との連携
- (a) 農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園)
- (b) 矢吹町と本校との連携協定による取組「フロンティア農園」による町民との交流(6 回開催、参加数延べ 93 名)。
- (c) インターンシップの受入(安積高校探求活動、白河実業高校施設見学、福島大学食農学類 3 年生短期受入)
- (d) 物産販売施設の経営強化研修会
- (e) JA 東西しらかわとの連携協定
地域農業の発展と就農する担い手の確保(米の提供について)
- (f) 矢吹町広報誌で毎月本校学生を紹介
- e 販売活動
- (a) 三重農大との交流
GAP 取組を通じて交流を実施している三重農大産の煎茶等を本校直売実習で本校学生が販売(6/16)。
- (b) 福、笑いの販売
本県のオリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培研究会『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として、「福、笑い」の栽培に取り組んだ。本校産「福、笑い」は、あだたらの里直売所等で販売された。
- (c) 農業総合センターまつりにおける農産物販売の実施
農業総合センターまつりに 2 学年、職員が参加し、乾麺、小麦粉、ミニトマト、たまねぎ、なし(幸水)、ぶどう(ピオーネ)、小ギク、カスミソウなどの農産物販売を実施した(9/1)。

f 情報発信

- (a) テレビ・ラジオによる学生募集案内
 - ・県政広報テレビ番組2回
 - ・おしえてキビタン(6/24放送「アグリカレッジ福島 オープンキャンパスに行こう!」)
 - ・キビタンGo(1/10放送「アグリカレッジ福島で農業を学ぼう」)ラジオ 13回
 - ・農家の皆さんへ(4月、5月、7月、11月、12月、1月)6回
 - ・キビタンスマイル(4月、6月、9月、10月、11月、12月、1月)7回
 - ・テレビ・ラジオ30秒スポットCM 5回
 - ・オープンキャンパス参加者募集(6月)、櫛隆祭開催(10月)
 - ・一般入試前期(11月)、一般入試後期(12月)、長期研修生募集(1月)
- (b) 県の公式Twitterへの学生募集掲載
オープンキャンパス参加者募集(7月)、櫛隆祭開催(10月)
- (c) 新聞広報(県からのお知らせ)4回
オープンキャンパス参加者募集(6月)、一般入校試験前期(11月)
一般入校試験後期(12月)、長期研修生募集(1月)
- (d) 雑誌掲載1回 月刊コロブス7月号
- (e) 矢吹町広報誌「広報やぶき(農短大生のひとりごと)」12回
- (f) 外部講師の授業における、Instagramによる学校紹介
- (g) 福島放送情報番組「シェア」における本校「直売実習」の放映
福島放送「シェア」の県民リポーターである坂本陽子氏(やぶき観光案内所所長)が、8月9日開催の「直売実習」について取材を実施。農産物直売所「アグリハウス万菜」への商品の搬入・陳列・ポップ掲示などの売場作り、来場者への商品の説明や販売の風景、次回9月20日予定の本直売実習の開催予告などの動画撮影を行い、同番組で8月16日に放映された。
- (h) こおりやま産業博への参加

g 学生募集

- (a) 県外(東京、千葉、埼玉、栃木、茨城)への学校要覧の送付
近年は茨城、栃木、埼玉、東京の高校よりオープンキャンパスへの参加及び、受験されているため、関東圏への農業高校へ情報提供を実施した。
- (b) 通信制、定時制への学校訪問
近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。
- (c) オープンキャンパスの時間短縮
県外からの参加者、天候などを考え内容を詰めて午前中開催とした。

h その他

- (a) 今年度櫛隆祭において農業関連企業、地元飲食店、農業法人、キッチンカーによる販売や企業紹介。修明高校、光南高校による販売や活動紹介などを行った。
2,500名程度の来場者となり、本校をアピールする良い機会となった。
- (b) 卒業記念講演
3月1日(金)斎藤恭紀気象予報士による記念講演を実施した。

i 統合事業関係

「令和5年度福島県特定原子力施設交付金事業」を活用して新たなパイプハウスを1棟新設し、長期就農研修生受け入れ強化を図った。

ウ 進路指導の取組

(ア) 就農への誘導

- 令和5年度卒業生45名は全員進路が決定した。内訳は就農21名(47%)、農協・農業団体3名(6%)、農業関連産業12名(27%)、他産業4名(9%)、公務員4名(9%)、進学1名(2%)であり、就農率は過去最高となった。
- a 令和3年度から就農支援サポート支援員(1名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすため、農業法人の求人に関する意識調査、農業法人と学生とのマッチング、学生との個別相談、就農相談会開催支援の取組を行った。
 - b 県内研修を活用し、現地において農業の復興に取り組む農業法人や技術革新に取り組む意欲的な法人の研修を実施した。
 - c 学生の就農意欲高揚のため、1学年を対象とした就農相談会「相双地域における農業法人等視察相談会」、「ふくしま農業人フェア2023 for Students」に参加した。

(イ) 進路に対する意識付けと支援

- a 1学年を対象として8月に進路希望調査を実施した。
- b 学生の進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、就農講座、農業法人等就職講座において指導を実施した。

- c ハローワーク白河と連携し2学年7名を対象に、ジョブサポーターによる個別面談を実施した。また、ふくしま生活・就職応援センターと連携し1学年19名を対象に個別面談を実施した。

(ウ) 資格取得支援

- a 大型特殊免許（農耕車に限る） 2年生 32名が免許を取得した。
- b けん引運転免許（農耕車に限る） 2年生 26人が免許を取得した。
- c 毒物劇物取扱者 1年生 5名が資格を取得した。
- d 刈払機取扱作業安全衛生教育 1年生 49名受講
- e アーク溶接業務特別教育 1年生 25名受講
- f 家畜人工授精師 畜産経営学科2年生 9名が資格を取得した。

(エ) 就農準備資金の活用

- a 就農準備資金は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額150万円で最長2年間交付される。本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2学年11名、1学年12名、長期就農研修生3名が受給した。
- b 本制度を活用した2学年の就農分野は、親元就農4名、雇用就農7名であった。

エ 学生募集の取組

(ア) 募集要項等の送付

募集要項等を高校155校、県の43機関、59市町村、19団体に送付し、学生募集への協力を依頼した。

(イ) 高校訪問他

県内の高校120校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について説明するとともに生徒の進路希望状況について調査した。加えて県外高校4校に訪問した。

(ウ) 進路説明会への参加

高校主催の説明会26校延べ37校に参加し、本校の概要等について説明した。今年度から郡山、白河会場での進学相談会に参加した。

(エ) オープンキャンパスの開催

7月15日(土)、7月23日(日)、8月3日(木)にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。29校78名の高校生等及び74名の保護者が参加した。案内は高校116校、59市町村、農林水産部の16機関、2団体に送付し、協力を依頼した。

(オ) 県広報の活用

広報課30秒スポット放送5回、キビタンスマイル(ふくしまFM)7回、農家の皆さんへ(ラジオ福島)6回、農業総合センターだよりに学生募集の案内を掲載した。

(カ) 学校見学の受け入れ

県立高校4校の生徒80名、教員7名が来校し、農業の現状に関する施設・設備の見学及び教育内容の説明を行った。

(キ) 募集結果は、推薦入校試験受験者31名、一般入校試験(前期)受験者11名、一般入校試験(後期)受験者1名の計43名が受験し、43名が合格となった。

オ 学生数

(ア) 学科別

※入校時

学 科	1学年			2学年			計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
水田経営学科	10	0	10	12	1	13	22	1	23
野菜経営学科	14	2	16	8	7	15	22	9	31
果樹経営学科	12	1	13	3	3	6	15	4	19
花き経営学科	6	2	8	2	0	2	8	2	10
畜産経営学科	6	6	12	6	3	9	12	9	21
計	48	11	59	31	14	45	79	25	104

(イ) 農家、非農家別

※入校時

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
専業	11	19	8	18	19	18
農家 兼業	8	13	10	22	18	17
計	19	32	18	40	37	35
非農家	40	68	27	60	67	65
合計	59	—	45	—	104	—

(ウ) 出身高校課程別

※入校時

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農業高校	29	49	31	69	60	58
普通高校	23	39	8	18	31	30
その他	7	12	6	13	13	12
合計	59	—	45	—	104	—

カ 教育科目

区分	科目名	単位数	授業時間数				授業回数(時限数)			
							1学年		2学年	
			講義・演習	実験	実習		前期	後期	前期	後期
共通 教養科目	全 学 科 共 通	生物基礎	1	15			7			
		化学基礎	1	15			7			
		数学基礎	1	15			7			
		国語表現Ⅰ	1	15			7			
		国語表現Ⅱ	1	15				7		
		国語表現Ⅲ	1	15					7	
		人間と社会	1	15					7	
		体育	4	60			14	6	7	3
		教養講座	1	15			3	4		
		就農講座Ⅰ	2	30				14		
		農業法人等就職講座Ⅰ								
		就農講座Ⅱ	1	15					7	
農業法人等就職講座Ⅱ										
① 小計		15	225	0	0	45	31	28	3	

区分	科目名	単位数	授業時間数				授業回数(時限数)			
			講義・演習		実験	実習	1学年		2学年	
			前期	後期			前期	後期		
共通 専門科目	全 学 科 共 通	農業経営	2	30				14		
		農業経営演習	2	30						14
		農業法規	2	30						14
		農業関連産業論	1	15			5	2		
		簿記概論	3	45			22			
		農業情報処理基礎	2	30				14		
		農業情報処理応用	1	15						7
		農業情勢Ⅰ	1	15					7	
		農業情勢Ⅱ	1	15						7
		土壌肥料概論	2	30			14			
		農業機械	2	30			14			
		農業機械基礎実習	1			45	6	16		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			22	
		マーケティング論	1	15					7	
		マーケティング演習	2	30						14
		食品製造	1	15					7	
		スマート農業実践	1	15				7		
		GAP 概論	1	15			7			
		卒業論文	10	150				15	30	30
		簿記検定講座*	2	30				14		
		毒物・劇物取扱解説*	1	15			7			
		毒物劇物取扱者資格講座*	1	15			7			
		農業機械操作実習Ⅱ*	1			45				
		② 小計 (*自由選択科目を除く)	37	525	0	90	68	61	80	86
専門 科目	水田 野菜 果樹 花き 学科 共通	農業概論	2	30			14			
		作物保護	2	30				14		
		植物生理	1	15			7			
		環境保全と農業	2	30					14	
		有機農業	1	15					7	
		農産物流通	1	15					7	
		農学実験	1		30		8	6		
		③ 小計	10	135	30	0	29	20	7	21
		水田 経営 学科	先進農家等留学研修	5			225	44		
	水田経営研修		2			90	10	12	19	4
	作物経営実習		25			1125	140	130	195	97
	水田経営基礎		2	30			14			
	水田経営応用		2	30				14		
	水田経営実践		2	30					7	7
	食品製造演習		2	30				14		
	④-1 小計		40	120	0	1440	208	170	221	108
	野菜 経営 学科	先進農家等留学研修	5			225	44			
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	4
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	97
		野菜生産概論	2	30			14			
		野菜栽培各論	2	30				14		
		野菜経営各論	2	30					7	7
		食品製造演習	2	30				14		
		④-2 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108

区分	科目名	単位数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
						1 学年		2 学年	
			講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5		225	44			
		果樹経営研修	2		90	10	12	19	4
		果樹経営実習	25		1125	140	130	195	97
		果樹生産概論	2	30		14			
		果樹栽培各論	2	30			14		
		果樹経営各論	2	30				7	7
		食品製造演習	2	30			14		
		④-3 小計	40	120	0	1440	208	170	221
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5		225	44			
		花き経営研修	2		90	10	12	19	4
		花き経営実習	25		1125	140	130	195	97
		花き生産概論	2	30		14			
		花き栽培各論	2	30			14		
		花き経営各論	2	30				7	7
		フラワー装飾演習	2	30			14		
		④-4 小計	40	120	0	1440	208	170	221
	水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計 (①、②、③、④)		102	1,005	30	1530	350	282	336
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15		7			
		家畜育種学	1	15			7		
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15			7		
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30				14	
		家畜栄養学	1	15		7			
		家畜衛生学	1	15				7	
		畜産環境保全	1	15				7	
		家畜解剖生理学	1	15		7			
		家畜解剖実験	1		30	14			
		先進農家等留学研修	5		225	44			
		畜産経営研修	2		90	10	12	19	4
		畜産経営実習	25		1125	132	138	188	104
		乳用牛・肉用牛概論	2	30		14			
		飼料作物	1	15					7
		食品製造演習	2	30			14		
		乳用牛飼養管理技術応用	2	30			14		
		肉用牛飼養管理技術応用							
乳用牛経営	1	15					7		
肉用牛経営									
⑤ 小計	50	255	30	1440	235	192	235	122	
畜産経営学科必修科目合計 (①、②、⑤)		102	1005	30	1530	348	284	343	211

履修科目 (必修科目 102 単位、自由選択科目 5 単位の合計)	107	1065	30	1575	660	576
--------------------------------------	-----	------	----	------	-----	-----

キ 非常勤講師一覧

	科目	講師名	所属・職・機関
共通教養科目	化学基礎	廣谷岳人	ベスト学院
	国語表現Ⅰ	穴沢えり	ベスト学院
	国語表現Ⅱ	穴沢えり	ベスト学院
	国語表現Ⅲ	阿部光二	ベスト学院
	体育	水野純子	メディカルフィットネスくら

	科目	講師名	所属・職・機関
共通 専 門 科 目	農業経営演習	宗像春望	会計コンサルタント
	農業法規	本庁職員	福島県庁
	農業関連産業論	担当職員	福島県林業研究センター 福島県農業協同組合中央会 福島県農業共済組合
	簿記概論	宗像春望	会計コンサルタント
	農業情報処理基礎	志間幸恵	シップスパソコンスクール
	農業情報処理応用	志間幸恵	シップスパソコンスクール
	農業情勢Ⅱ	本庁職員	福島県庁
	土壌肥料概論	諸橋一信	諸橋肥料店
	マーケティング論	横尾恵美	しゅふコミ代表
	マーケティング演習	横尾恵美	しゅふコミ代表
	食品製造	郡司尚子	郡山女子大学准教授
	(自由選択) 簿記検定講座	宗像春望	会計コンサルタント
	(自由選択) 毒物・劇物取扱解説	高山博英	元県職員
	作物保護	草野憲二	福島県植物防疫協会
	環境保全と農業	谷口崇至	AW エンジニアリング代表取締役社長
	農産物流通	久野雅己	株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
	フラワー装飾演習	中村良美	フラワースタジオ POCO A POCO 主宰
	家畜育種学	國分洋一	元県職員
	家畜栄養学	土屋友充	元県職員
	家畜衛生学	担当職員	中央家畜保健衛生所
家畜解剖生理学	二瓶由佳	元県職員	
家畜解剖実験	担当職員	中央家畜保健衛生所	
飼料作物	土屋友充	元県職員	

ク 教育行事

月 日	行 事 名
令和 5年 4月 7日	始業式
10日	入校式
11日	学生健康診断・オリエンテーション
28日	防災避難訓練
5月23日～24日	東日本親善球技大会(福島県主催)
17日	卒業論文設計発表会
6月 7日	植付け祭
6月21日～ 7月 5日	先進農家等留学研修(前期)
16日	直売実習(1回目)
7月20日	直売実習(2回目)
21日	学校記念日
15日	オープンキャンパス(1回目)
23日	オープンキャンパス(2回目)
8月 3日	オープンキャンパス(3回目)
9日	直売実習(3回目)
9日～21日	夏期休業
24日～ 9月 7日	先進農家等留学研修(後期)
9月 6日	毒物劇物取扱者資格試験
20日	直売実習(4回目)
26日～29日	前期試験(1・2学年)
10月 3日	後期授業開始
22日	櫛隆祭
11月 1日	直売実習(5回目)
16日	校内意見発表会(1学年)
7日	防災避難訓練
17日	収穫祭、球技大会(学生自治会、寮自治会主催)
19日	日商簿記検定試験
22日	直売実習(6回目)
12月15日	卒業論文発表会
16日～ 1月9日	冬季休業

月 日	行 事 名
令和 6年 1月17日～18日	東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会
23日～24日	後期試験（2学年）
23日～ 2月22日	家畜人工授精に関する講習会
2月14日～15日	後期試験（1学年）
19日～26日	海外農業研修（タイ25日まで、ニュージーランド26日まで）
25日	日商簿記検定試験
3月 1日	卒業記念講演会 （講師：斎藤恭紀氏「農業に及ぼす気象の影響」）
8日	卒業式
11日	終業式
12日～ 4月 8日	春期休業

ケ 各種表彰者

月 日	行事名	結 果
		最優秀
		「農業の未来と夢」 果樹経営学科 1年 樺山 元紀
		優秀1席
令和5年 11月16日	校内意見発表会	「日本の農業の未来」 果樹経営学科 1年 小水 大晟
		優秀2席
		「農業王に俺はなる」 野菜経営学科 1年 白坂 光太郎
		最優秀賞
		「我が家の牧草地における生産性の向上に向けた管理方法の検討」 畜産経営学科 2年 佐藤 颯柊
令和5年 12月15日	校内卒業論文発表会	優秀賞
		「肥育牛における乾燥ビール粕給与が産肉性に及ぼす影響」 畜産経営学科 2年 諸根 こはる
		優秀賞
		「矢吹町におけるワキシコーンの栽培」 水田経営学科 2年 坂本 峻太郎
		銀賞
令和6年 2月 9日	第34回ヤンマー学生 懸賞作文	「私の農業」 野菜経営学科 1年 榎田 心音
		銅賞
		「農業王に俺はなる」 野菜経営学科 1年 白坂 光太郎

コ 卒業生の進路状況

進 路		農業経営部
就 農	自家	6
	法人	15
	研修	0
	小計	21
非就農	農協	2
	農業団体	1
	農業関連産業	12
	他産業	4
	公務員	4
	進学	1
	小計	24
未定		0
合 計		45

(3) 研修部の取組

ア 研修実施状況

就農研修は就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、1年を単位とした実習主体の研修として実施した。

初級、中級、長期研修の実施により、初級1名、長期就農研修8名(内果樹6名)計9名が新規就農した。

また、「令和5年度福島特定原子力施設地域交付金事業」を活用し、新たにパイプハウス1棟を増設して長期就農研修生受入れ強化を図った。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース(全4回継続参加)」を年2回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげた。

農業機械研修では、大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」を実施した。

また、農業者が抱える課題解決のため、本校の施設・設備を活用する施設利用研修については就農・農産加工・農業機械の各種研修体系の中に組み入れて実施するとともに、農作業安全に関する研修については現地の要請に応じ実施した。

イ 研修実績

(ア) 就農研修

a 初級

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a)春コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習	就農予定(希望)者 15名	15名	5~7月(5日) (日曜日開催)
(b)秋コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習		15名	8~11月(5日) (日曜日開催)

b 中級

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a)中級	[講義、演習、見学] 必修科目：土壌肥料 農業経営、 農業機械、鳥獣害対策 選択科目：水稲、野菜、果樹、 花き、畜産、有機農業	就農予定者 及び就農者 15名	15名	5~8月 (必修科目10日) (選択科目各4日) (平日開催)

c 長期就農研修

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間
(a)長期就農研修	[実習、講義] 栽培管理実習を柱にした1年間の研修 研修科目： 施設野菜、露地野菜、果樹、 花き、水稲・畑作物、畜産、 有機栽培 研修場所： 農業短期大学校、果樹研究所、 本部、会津地域研究所、 浜地域研究所	福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者 21名(左記の研修場所における総受入れ人数)	10名 内訳 農業短大 3名 果樹研 7名	令和5年4月 ~ 令和6年3月

d 施設利用研修					
名称	主な内容		対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 令和5年度地場産物活用のための作物栽培研修	講義 実習	学校園の運営手法、 施肥量の計算 施肥、畝立て、播種 作業及び育苗、竹プラ ンター作り	県北・相双・いわ き地区の市町村 立小・中学校教 諭・栄養教諭	9名	8/9～8/10(2日)

e 研修用ハウス増設			
事業名	主な内容	事業量	事業費
農業短期大学校研修用ハウス整備事業	研修希望者の多い施設栽培の強化を図るため、環境制御装置等を実装した栽培施設を整備する。	5.4×18m 一式(1棟)	11,990,000

(イ) 農産加工研修

a 基礎(春コース)					
名称	主な内容		対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示		農産物加工 販売予定者 15名	15名	5/10(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介				5/24(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法				6/7(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営				6/21(1日)

b 基礎(秋コース)					
名称	主な内容		対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示		農産物加工 販売予定者 15名	11名	10/4(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介				10/18(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法				11/1(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営				11/15(1日)

c 応用					
名称	主な内容		対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 加工技術応用	・新商品づくり ・食品の殺菌方法		農産物加工 販売者15名	13名	8/30(1日)

d 施設利用研修					
名称	主な内容		対象者	受講者数	期間(日数)
(a) 農産加工	・福島県農産物加工者連絡協議会全体研修		福島県農産物加工者 連絡協議会	22名	4/26(1日)
	・アスパラガス加工		福島県農林企画課	3名	5/1(1日)
	・中華ちまきの冷凍販売		福島県農産物加工者 連絡協議会	4名	6/14(1日)
	・福島県農産物加工者連絡協議会全体研修		福島県農産物加工者 連絡協議会	10名	7/26(1日)
	・令和5年度地場産物活用のための作物栽培研修		県北・相双・いわき地 区の市町村立小・中・ 学校教諭・栄養教諭	9名	8/9(1日)

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
(a) 農産加工	・トマトのレトルト加工	鮫川村	1名	9/ 4(1日)
	・イチゴのドライ加工	鮫川村	1名	1/12(1日)
	・ゆず加工	福島県農産物加工者 連絡協議会	5名	2/ 8(1日)
	・浅漬けの急速冷凍	株式会社ティー-開発 福島	2名	2/13(1日)
	・カレーとスープのレトルト加工	NP0法人クローバー 福祉会	2名	2/20(1日)
	・りんごのドライ加工	福島県農産物加工者 連絡協議会	1名	2/13(1日)
	・福島県農産物加工者連絡協議会 全体研修	福島県農産物加工者 連絡協議会	22名	3/13(1日)

(ウ) 農業機械研修

a 安全運転技術総合コース

名称	主な内容	対象者及び 定員	受講 者数	期間(日数)
(a) けん引 操作 (農耕車限定)	・けん引免許(農耕車限定)取 得に向け、公道を安全に運 転ができるための技術習得	農業者等 各9名	6名	第1回 5/23~ 5/25(3日)
			8名	第2回 6/ 6~ 6/ 8(3日)
			7名	第3回 6/27~ 6/29(3日)
			8名	第4回 7/ 4~ 7/ 6(3日)
			9名	第5回 10/ 3~10/ 5(3日)
(b) 大型特殊 操作 (農耕車限定)	・大型特殊免許(農耕車限定) 取得に向け、公道を安全に 運転ができるための技術習得	農業者等 各9名	9名	第1回 10/17~10/19(3日)
			9名	第2回 10/31~11/ 2(3日)
			10名	第3回 12/ 4~12/ 6(3日)

b 技術向上コース

名称	主な内容	対象者及び 定員	受講 者数	期間(日数)
(a) 初めての 刈払機	・刈払機の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等 各8名	7名 1名	第1回 5/17 (1日) 第2回 8/24 (1日)
(b) 初めての 農機整備	・農業機械(トラクタ、刈払機 管理機)の点検整備	農業者等 各8名	4名 9名	第1回 9/ 6 (1日) 第2回 1/17 (1日)
(c) スマート 農業	・ドローンの基本知識及び飛 行操作体験 ・ロボット通信技術及び情 報通信技術(ICT)の基礎 知識	農業者等 10名	6名	12/13~12/14(2日)
(d) 初めての アーク溶 接	・アーク溶接の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等 8名	5名	2/ 6~ 2/ 7(2日)
(e) トラクタ 操作技術 向上	・トラクタの基本操作 ・ロータリ耕 ・点検整備	農業者等 各8名	8名 8名	第1回 11/ 8~11/ 9(2日) 第2回 11/21~11/22(2日)
(f) コンバインの 整備点検	・整備点検技術の習得	農業者等 各10名	6名 8名	第1回 8/30(1日) 第2回 8/31(1日)

c 農作業安全推進コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 現地支援研修 現地で学ぶ農 作業安全	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業事故の現状 ・農機械の安全対策 	矢吹町・弥栄地区	25名	6/ 4(1日)
		JA夢みなみ石川地区	30名	9/21(1日)
		福島・川俣地区新規就農者	12名	11/17(1日)
		県中農林(多面的機能支払 交付金)	192名	11/24(1日)
		相双農林(多面的機能支払 交付金)	300名	11/30(1日)
		県北農林(福島富女子会)	16名	1/ 9(1日)
		JA福島さくらたむら地区	34名	2/21(1日)
		郡山市農業委員会	30名	2/27(1日)
	三春町	30名	3/15(1日)	

d 施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期 間(日数)
(a) 農業機械	・農作業安全	郡山市園芸振興セン ター研修生	5名	5/16(1日)
	・専門技術向上研修	普及指導員	15名	5/22(1日)
	・トラクタ基本操作	女性農業者	7名	11/14(1日)
	・トラクタ免許	郡山市園芸振興セン ター研修生	2名	11/28～11/29(2日)
	・けん引運転免許	郡山市園芸振興セン ター研修生	3名	1/24～ 1/26(3日)
	・農作業安全	須賀川農業普及所	8名	2/ 1(1日)
	・けん引運転免許	みずほ郡山RC	5名	2/13～ 2/15(1日)

2 福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和2年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

(1) 農業短期大学校運営会議の開催

開催日	開催場所	テ ー マ
令和6年 2月28日	農業総合センター 農業短期大学校教養ホール	1 令和5年度の教育実績 2 学校評価 3 令和6年度の教育内容 4 学生の活動紹介（映像による学校・学科紹介） 5 意見交換

(2) 運営会議委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
鈴木 光一	福島県指導農業士会 会長
中田 幸司	うつくしまふくしま農業法人協会 会長
鈴木 正洋	福島県農業会議 担い手・経営対策部長
紺野 明宏	福島県農業協同組合中央会 人材育成部長
菅野 雅敏	就農支援センター 所長
安田 修久	福島県高等学校教育研究会農業部会 部会長
新田 洋司	福島大学 教授
志間 幸恵	大学校外来講師
諸根 茂喜	農業短期大学校後援会 会長
小沢 充博	農業短期大学校同窓会 会長
竹内 孝重	農業担い手課 課長